

日隆聖人紀行

5

永享七年（一四三五）本能寺の日隆聖人のもとを、駿河国（静岡県）岡宮光長寺の本果院日朝聖人が訪ねてこられました。両聖人は時を忘れて宗祖の教義について語り合い、本門八品こそが宗祖の真意であることを確認し、東西共に力を合わせて本門八品の教えを弘めることを誓いました。時に日隆聖人五十一才、日朝聖人四十二才のこととあります。今回は法華宗四大本山の一つ、日朝聖人の光長寺を訪ねます。

日隆聖人略年表

至徳 2年	越中において御誕生
応永 22年	本能寺を創立
25年	六人の刺客に襲われる
27年	細川満元への祈禱、本興寺を創立
33年	北陸へ布教
永享 7年	日朝聖人と一味法水の盟約
宝徳 元年	西国へ布教
享徳 3年	晩年勸学院を造立して宗門子弟の養成と宗義撰述の大事業に専念精進
寛正 5年	本興寺において御入滅

参照：「日隆聖人略伝」

宗祖日蓮大聖人は文永年間、岡宮の地をご巡化の際に草庵を結ばれたと伝えられますが、その後宗祖の命によりお弟子日法聖人がこの地で布教している時、教えを聞いた当地の天台宗の僧空存は、自らの誤りを悟り日法聖人に帰信し、聖人の手引きで宗祖のお弟子となり、名を日春と賜りました。時に建治二年（一二七六）、この

年を光長寺の開創としています。以来三十五年間の布教により延慶四年（一一三二）、仏殿の建立を達成し、宗祖の命に答えられ、両聖人は宗祖日蓮大聖人をご開山に勧請されました。その後遺弟は日春日法両聖人を開基同時二祖と呼びし、以来宗祖の正義を弘める中心の道場となりました。

今も光長寺には、日春日法両

聖人以来伝承する宗祖のご真筆本尊、宗祖のお舍利、中世の文学作品等、多くの宗宝・重要文化財が格護されています。宗祖のお舍利を納めるお箱の蓋裏には日法聖人が自ら「本門日蓮大聖人御舍利」としたためてあります。聖人の宗祖の真意への深いご理解の顕れであり、光長寺では、開宗七百五十年を記念として造立された宗祖大聖人銅像



光長寺客殿

の「銘」とし、この「本門日蓮大聖人」の文字を載いて台座の正面に掲げてあります。

応永元年（一三九四）、甲斐国（山梨県）に本果院日朝聖人が誕生されました。日朝聖人は九才の時光長寺に登り第四世日賢上人に師事、日夜宗祖の教学の研鑽を重ねられました。休息立正寺を再興移転され七世の貫首、光長寺塔頭東之坊の五世となられ、また学室（後の岡宮檀林）を興して学頭となって弟子の教育にあたられました。

日朝聖人は日春日法両聖人より伝わる教えを正しく継承するべく努力されるなかで、日隆聖人が本門八品の正義を弘められていることを知り、永享七年（一四三五）、本証寺の日隆聖人を訪ねられました。この時、日隆聖人は同じ志の日朝聖人の存在を知り、大いに感激されたことでしょう。この後、日朝聖人は日隆聖人へ教学上の質問をされ、その回答が日隆聖人著

『十三問答抄』であると伝えられています。日隆聖人の八品教学は、更に当時の富士門流の諸師にも強く影響を与えたことが知られています。日朝聖人は日隆聖人との出会いによって、光長寺に伝わる本門八品こそが宗祖の教えであると意を強くされました。そこで両聖人は東西とも力を合わせて本門八品の広宣流布を誓い、「法水一味・人法互通の盟約」を結ばれ、即ち、

古来「東朝西隆の約」と云い伝えられています。現在尼崎の本興寺には、日隆聖人直弟子の智本上人が写した「富木書」・「本尊抄副書」が伝えられています。これは恐らく日朝聖人が書写の便宜を提供されたものと思われる。また日朝聖人は本蓮寺・蓮静寺・本国寺・蓮華寺・安立寺等を建立されました。聖人の元には多くの弟子信者が集まり、光長寺の学室に集まる学生は七十余人を数えたと伝えられます。そして日隆聖人がお

亡くなりになられた二年後、文正元年（一四六六）十月二十五日、七十三歳で入寂されました。法華宗は現在四大本山をもつて結束しています。光長寺の歴史にふれると、宗祖日蓮大聖人がますます身近に感じられるようであり、また、「法華宗再興弘通の唱導師日隆聖人」と「法運中興日朝聖人」との出会いが、私共の法華宗が宗祖のご真意をそのままいただいていることの証拠といえましょう。

タイトル／誕生寺別当 木村日應



光長寺御宝蔵



「本門日蓮大聖人」の像



「日朝聖人御旧跡」の碑



塔頭東之坊

寺院探訪

法華宗 大本山 光長寺 塔頭 東之坊

沼津市岡宮一〇六三一

(電話九二二—一二八二)

本尊 南無妙法蓮華經

本山 光長寺(開山日蓮聖人)

開基 兵庫阿闍梨日光上人(?—一三四七)

宝物 日蓮聖人ご真蹟「下山御消息」断簡

日朝聖人ご親筆「曼荼羅御本尊」ほか

当坊は、光長寺参道東側の高台に位置する
本山の子院で、鎌倉時代末期に開かれました。
明治三十四年の火災による古記録消失のため、
正確な開創年月は不明です。

当坊には、教育に関して由緒ある二つの名
が残されています。第一は第五世日朝聖人



(本果院。一三九—一四六六)。聖人は、光
長寺の学頭として七十余人のお弟子を育成し、
白らも甲州・駿河・伊豆地方に布教して六ヶ
寺を開創しました。また京都の日蓮聖人門下
と連携して現在の法華宗の基礎を確立された
ので、法運中興の祖と尊称します。当坊では
親しみをこめてお日朝さんと呼び、ご命
日連夜に月例講を開いています。第二は晤学
舎。これは、明治五年の太政官布告による新
学制施行の時、旧金岡村(現金岡地区)東部
の教育施設として当坊境内に開設された学校
です。明治十九年に西部の敬身舎と合併し、
金岡小学校となって現在に至っており、当坊
は金岡の近代教育の発祥地となっています。



日朝聖人ご旧跡石碑と坊門



本堂と前庭

当坊は古来の伝統を数多く残していますが、
そのなかに《主伴の儀》があります。これは、
光長寺に新しい貫首様が普山(本山の住職に
就任すること)される際、まず当坊に入って
衣を改め、全塔頭の住職と執り行う儀式です。
現在の当坊は、坊門と築地塀に囲まれた約
一千坪の境内に、本堂・客殿庫裡と庭園・駐
車場を配しています。天保年間建立の坊門が
古建築の趣を醸し出す一方、現本堂は昭和四
十五年の建立当時より椅子式を採用、後に客
殿とともに冷暖房を完備し、車椅子にも対応
した近代的施設となっています。境内のしだ
れ桜(紅八重枝垂れ)は名花の誉れ高く、そ
のライトアップされた風情はまさに妖艶、花
の頃には終日、花客の足が絶えません。

住職 石田 智宏